

広島県立広島叡智学園中学校・高等学校 学校運営協議会の会議録

本校の学校運営協議会を次のとおり開催した。

開催日時	令和4年10月21日(金) 14時00分から15時00分まで	開催場所	会議室
出席委員	<p>人数：7人 委員氏名(役職) 高田 幸典氏(大崎上島町長) 森下 秀月氏(大崎上島町商工会事務局長) 坪谷ニューエル郁子氏(東京インターナショナルスクール理事長)※オンライン参加 田頭 吉一氏(国立大学法人鹿児島大学副学長)※オンライン参加 草原 和博氏(広島大学大学院人間社会科学研究科教授) 比枝 圭介氏(PTA会長) 福島 一彦(校長)</p>		
会議の概要	<p>○自己評価シート(中間評価)の説明 本校から、学校経営計画の項目に従い、国際バカロレア、主体的・対話的で深い学び、寮生活など、本校の教育活動の自己評価について説明を行った。 各委員からは、次のような御質問・御意見をいただいた。</p> <p>○各委員からの発言要旨 (御質問) ・働き方改革を進める中で、削減した業務はあるか。 → 複数の会議を一つに統合するほか、会議資料のデジタル化による印刷時間の削減などを実施した。 ・生徒のDPの科目選択において、必要な選択肢を提供できる状況にあるか。 → IBを利用した大学入試制度については、各大学が様々な条件を出している。本校の提供する科目がすべての制度に対応できるわけではないが、生徒の進路実現が最大限可能となるような授業を展開し実施している。</p> <p>(御意見) ・生徒がたくましく成長している様子から、MYPの最終ゴールには到達していると感じている。今後は、MYPの成果をDPに繋げることに意識して欲しい。</p> <p>○下半期の取組に係る意見交換 各委員からは、次のような御意見をいただいた。</p> <p>○各委員からの発言要旨 (御意見) ・生徒、教員、地域及び保護者が連携を深めていけるよう取り組んで欲しい。 ・進路について、フルDPが取得できない生徒のセーフティネットを、現段階から準備しておくこと。 ・フルDPが取得できなくても受験できる入試制度を実施している大学もある。また、様々な大学がIBを活用した入試制度の実施を検討している。 ・高等学校入学者選抜の志願状況から見れば、まだ十分には本校の教育活動が認知されていない部分があるからではないかと考えている。教育活動の情報発信を様々な機会やツールも使って積極的に行って欲しい。 ・IB校であることに加えて、広島県の「学びの変革」を先導し、他の学校に成果を還元していくことを意識して取り組んで欲しい。とくに、多くの学校が学際的な学びの実践方法で悩んでいる状況のため、パーソナルプロジェクトなどのIBの学びを還元して欲しい。</p> <p>以上、委員から貴重な御意見等をいただいた。本校としては、いただいた御意見をもとに、今年度の学校運営に活かしていく所存である。</p>		
次回開催予定日	令和5年3月初旬		

※ 「概要」欄については、協議の経緯は簡潔にし、協議の結果が分かるように記載すること。